



平成29年

2月1日(水)

例会場：福島サンパレス

RI第2530地区 県北第1分区 2016-2017年度

福島南ロータリークラブ会報



RI会長 ジョンF.ジャーム テーマ「人類に奉仕するロータリー」

RI第2530地区ガバナー 佐久間 英一

福島南ロータリークラブ 会長 佐久間 功 幹事 横山 りつ子

目標「明るく、元気に広がる奉仕の輪」

第28回 例会

会員/74名 出席/53名 出席率/71.62%

メイクアップ/21名 修正/74名 修正率/100.0%

2016-2017年度 福島南ロータリークラブ会長

会長挨拶 佐久間 功 会長



早いものです。もう2月に入りました。春夏秋冬の季節がありますが、最初の立春の前日に当たる日を節分というのは、ご存じの通りです。これと同じように、立夏・立秋・立冬の前日も節分なのですが、江戸時代のころから、立春の前日だけを節分と呼び豆まきをする習慣が生まれたようです。今月は2月3日です。会員の皆様も鬼を追い出して、福を呼び込んでください。

ところで、先月の理事会に於いて、鈴木定男会員からの退会届を受理し承認しました。1月一杯で退会となりましたのでお知らせいたします。本来なら例会へお越しただいでご挨拶いただくところですが、体調がすぐれないため、ご出席ができませんので、17年間

在籍され、それまでのクラブへの功績を称え、色紙に寄せ書きのメッセージをお渡ししたいと思います。会員の皆様の鈴木定男さんへの感謝のメッセージなどを一言寄せ書きして頂くことにご協力をお願いします。クラブ細則に基づき、来週の6日に鈴木商事の専務・常務さんへ銭別と共に、私と幹事が届けてまいりますのでよろしくをお願いします。

日野皓正復興支援ライブのポスター・チラシ・チケットができあがりました。これから皆様のお力で、PR活動をしなければなりません、よろしくご協力をお願いします。

野地会員からの情報で、福島県消防設備協会の機関誌「消設ふくしま」(本年1月発行)に、昨年11月に行われた、防火パレードの様子が、カラー写真入りで掲載されているとの事です。内容を見ますと、一緒にパレードをした「さくら幼稚園」とクラブジャンパーを着用して参加した福島南RCのメンバーの参加様子が紹介されていました。この冊子は、全国の消防関係の機関団体に配布されるそうです。ロータリーの公共イメージ向上に繋がるのではないかと思いますので、皆様へご紹介しました。



松山バレエ新春公演参加報告 林 克重 会員

菅原節子会員、麴町RCとの調整、当クラブまとめ役ありがとうございました。

NHKホールで開催された森下洋子さんが出演された白鳥の湖。とても幻想的な世界を表現し、主役の森下さんは、一番小柄で痩せていて、でも体幹がしっかりしているというか、68歳の年齢を感じさせないバレリーナでした(もうびっくりです)。

きちんとバレエを見たのは今回が初めてで、始まる前は少々緊張でしたが舞台の素晴らしいさに圧倒されて3時間に及ぶ公演を楽しく拝見させていただきました。後半には、白鳥が本当にそこにいるかのようなバレエに驚きました。

東京麴町RCの時團会長、若林さん、佐藤さんお付き合ひありがとうございました。客席には多くの東京麴町RCの皆さんもおいでになりました。因みに藤谷さんは、公演終了後そのままポリオプラスの活動でインドに出発しました。

当クラブからは、大橋フミ様、お嬢様、斎藤ミヨ会員、菅原節子会員、丹治洋子会員、松崎ご夫妻、安斎紀之会員、林夫妻の計10名の参加でした。

2月8日(水)のプログラム

- 12:30 1.開会点鐘
- 2.ロータリーソング 「奉仕の理想」
- 3.行動規範の唱和
- 4.来訪者紹介と会長挨拶
- 5.誕生日祝い
 - 誕生日祝いプレゼント
 - 誕生者1分間スピーチ
 - おめでとうシャワー
 - 記念撮影
- 6.お食事をどうぞ
 - スマイリングBOXの報告
 - 幹事報告
- 7.クラブフォーラム
- 8.各委員会報告
- 13:30 9.閉会点鐘

今後のプログラム

- 2月15日(水) 第30回例会
 - ・杉妻小学校児童・読書感想文発表
 - ・飯館村教材贈呈式参加報告
 - ・第一分区IM参加報告・クラブフォーラム
- 2月22日(水) 第31回例会
 - ・米山奨学金授与・米山奨学生スピーチ
 - ・会員スピーチ(丹治智幸会員)
 - ・ロータリーの友取材報告・家族親睦旅行参加報告

地区情報・第一分区・関連情報

- 2月11日(土) 成蹊高校「ふれあいコンサート」ロータリーの友取材
- 2月12日(日) 県北第一分区IM(ザ・セレクトン)
- 2月19日(日) 地区チーム研修
- 2月19日(日)～21日(火) 家族親睦旅行



ベネファクター表彰 佐久間功会長(松崎 弘昭奉仕プロジェクト管理委員長より授与)



出前授業参観御礼(第27回会報に報告記載)

会員スピーチ

「東日本大震災を体験して思う」

鈴木 洋子 会員

東日本大震災の津波と原発事故の放射能被害により避難先を転々とし間もなく6年が過ぎようとしています。本日、皆様の前でお話しする機会を頂きましたが6年間の生活の変化を短時間で皆様にどれだけお伝え出来ますか?同じ福島県人としてどれだけ体験を共有できるのか不安ですが、貴重な時間ですでお話しさせていただきます。

平成23年3月11日、千年に一度の未曾有の大震災に襲われ双葉郡の人々はその理由を伝えられないまま行政からの避難指示により故郷を後にしました。

私は富岡町で介護事業所を経営していました。会社を立ち上げ5年目、ようやく経営が安定してきた矢先のこと、大震災の揺れは、立っていることができないほどで、大きなベッドが動き棚から物が散乱し余震が続くため利用者様の安全を第一と考え、道路向かいの児童館のホールを借りました。

原発から9キロの距離の事業所は20キロ圏外への避難指示により、ご利用者様と職員とで川内村に向かいました。認知症高齢者の利用者を守るため一般の方とは別に離れた蕎麦屋の座敷を借りることができ、そこで初めてテレビの報道により避難指示の理由である原発事故のことを知りました。

3月15日の夜、防災無線で30キロ圏外に避難指示が出ました。ご利用者21名、職員24名は13台の車に分乗し福島市に向かいました。

16日、(震災から6日目) 午後福島市の介護事業所に着くとすぐに避難生活の最悪の環境に耐えきれず、90代男性が呼吸困難となり救急車を要請しました。しかし「スクリーニングを受けてないと収容できない」と断られました。その日、新聞社の取材を受けご利用者様と職員と一緒に避難し高齢者の命を守ったのは日本で初めてのことで知り、また、自分達が避難者となり管理者の使命感から、自分たちは生存していることを伝えなければならぬと市と県に行きました。そこで、支援を求めましたが、行政からは「事例がないこと、事故が想定外で支援は出来ない」との言葉に涙があふれ出ました。ご利用者と職員の生活を守るため私は「自分が変わる決心をしました」。新聞社の取材を受け全国に報道されると見ず知らずの皆様から温かいご支援が届きました。

3月22日、(震災から12日目) 民間のアパートを10部屋借り自力でご利用者との共同生活を始めました。始めは自分たちの部屋となり修学旅行のような興奮がみられましたが段差のある環境と浜通りの涼しい気候から蒸し暑い盆地の気候の厳しさは利用者様の体力を奪い、病院への通院が増え、入退院を繰り返し9月15日に一緒に避難した利用者様をアパートで看取りました。

阪神淡路大震災の仮設住宅での孤独死の事例から、震災後4月には厚労省から仮設グループホームの説明があり私たちは10月に大玉村の富岡町仮設住宅420戸の隣地の仮設グループホームに入居することが出来ました。行政のスピードある対応に事例の大切さを実感した私は「日本各地に原発はある、事故はどこで起こるかかわからない」と、認知症高齢者を守り続けた事例となると確信しました。

大玉村での生活は、アパートと異なり個室のある事、集えるホールのある本来のグループホームの環境に近づいたことで落ち着きました。また、大玉村の



会員スピーチ 「旅の話」 佐藤 朋也 会員

世界の名言を交えて私の旅を語ります。

- 「旅は現実逃避のためではなく、人生が我々から離れていかないようにするためにするものだ。」(世界の名言1)
- ①私の旅の目的 「暮らすように非現実的な旅をしたい。」
- ②旅と旅行との違い 「旅人は自分の目に映ったものを見る。ツアー客は見に来たものだけを見る。」(世界の名言2)
- ③私の旅 「旅はその距離によってではなく、出会った友の数によって測られるものである。」(世界の名言3)
- ④旅と国際貢献 存在するだけで他者へ貢献したことになる。(アルフレッド・アドラー)



日野皓正復興ライブについて 松崎 弘昭 総務委員長

来る3月26日(日)福島公会堂にて開催される復興ライブについて説明させていただきます。最大収容人数1270名を目標とし、ポスター200枚、チラシ1600枚を作成した。順次会員へ配布し周知してもらう。また、「整理券申込書」を配布するので、希望者は記入の上、事務局へ2月末まで申し込み下さい。

今回、入場無料開催であります。当クラブスマイリングBOXよりの抛出も予定しておりますので、整理券申込の方は、スマイリングBOXを通し募金して頂ければ幸いです。復興ライブを開催することにあたり、当クラブ会員増強の目標達成できる、きっかけとなってくれればと思います。



地域の皆様の温かいご支援と富岡町の仮設住宅に住む皆様が同郷であることの親密感が穏やかな環境となりました。しかし、仮設住宅で安達太良おろしの吹く冬の寒さは温暖な浜通りで生活した高齢者には厳しい気候でした。

また、体力のない高齢者と医療機関との関係は密接で101歳、97歳、93歳と続けて看取りを体験し私はご利用者の命を守るため、病院と近い福島市に事業所を新設することを決めました。

平成25年9月、(震災から2年6か月) グループホームとデイサービスを新設し福島市伏拝に引っ越しました。

震災から3年が経つと「福島の復興なくして日本の復興なし」と、言っていた日本の代表は「世界のオリンピックを日本で、世界の人に復興した姿を見てほしい」と、日本の復興ムードはオリンピックに流れ福島の復興は福島県内でも忘れられるほど風化が一気に進みました。

震災から5年がたっても、6年がたっても富岡の事業所のなかは物が散らしたままで、手作りのカレンダーの「3月11日、金曜日」を見ると心が痛みます。

認知症は環境の変化により症状が悪化するといわれています。福島県民は、震災という大きな変化の中で目に見えない放射能の被曝の危険を抱えながら訴えることもせず、多くの人はじっと寡黙に耐えています。そこで、少しでも認知症の予防につなげたいと震災の混乱の時期、平成23年4月に有志で「福島県認知症ケア専門士会」を立ち上げ、8月に日本認知症ケア学会より全国で13番目の県認知症ケア専門士会として承認を受け初代会長として5年間、福島県内での研修会や講演会を通じ認知症啓蒙活動を行いました。

私は、平成27年12月、福島南ロータリークラブに入会させていただき職業分類は「認知症ケア」とさせていただきました。そこには今は認知症という病気ですが、以前は社会人として立派に世の中のために貢献された皆様だという感謝の気持ちがあるからです。

私の主人は、富岡町ロータリー会員として多くのロータリアンと交友を深めロータリアンであることに誇りを持ち楽しむ毎日でした。幹事として会長の補佐をしているときに震災に遭い福島市に事業所を移転したときに偶然に大橋廣治バスターガバナーとお会いし避難状況をお話ししました。そこで大橋廣治ガバナーより多くのご支援物資を頂きました。ありがとうございました。また、夫は福島中央ロータリークラブで双葉郡の震災後の状況をお話する機会がありました。

ロータリアンとして職業を愛し奉仕の心でRI会長ジョンF.ジャーム様のテーマ「人類に奉仕するロータリー」に私は親しみを感じます。多くの知人を震災で失いました、生かされた私の命をロータリーで真の奉仕の精神を学び心豊かに奉仕の気持ちを持ち続けたいです。

震災により多くのものを失いましたが、それ以上に多くの学びがありました。普通に生活していた双葉郡の人たちは、故郷に戻ることができず避難生活を続けています。その責任はだれも取ろうとしません。時間とともに風化することを恐れます。

事務局：〒960-8151 福島県福島市太平寺字通吹 6-2 ザ・36・メイファイブ 1F2号室 TEL025-546-3793 FAX024-545-7878

HP：http://www.inaka.ne.jp/f-southrotary/index.html MAIL：f-southrotary2530@inaka.ne.jp

例会場：サンパレス福島 〒960-8101 福島県福島市上町 4-30 TEL024-523-3811(代) FAX024-523-0375